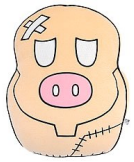
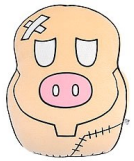
『アドルフに告ぐ』



目次

- 情報
  - 基本情報
  - 作者
  - 年譜
- 登場人物
- 作品の特徴
- 時代上の位置づけ
- 史実との関連
- まとめ



基本情報

- 連載期間:
  - 1983 - 1985年
- 連載雑誌:
  - 『週刊文春』(出版社:文藝春秋)
- 受賞歴:
  - 1986年 第10回講談社漫画賞一般部門受賞
- コミックス: 計7回出版される
  - (文藝春秋4回、小学館2回、講談社1回)
- メディアミックス:「ラジオドラマ」(TBSラジオ)
  - 第30回ギャラクシーラジオ部門大賞
  - ドラマCDとしても販売

作者:手塚治虫

- 1928 - 1989年(享年62歳)
- 大阪生まれ
- 大学は医学部。医師免許取得。
- 書いた漫画は604作
- ピーク時は13本同時連載
- 漫画の神様

年譜

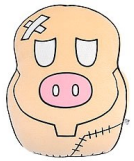
‘28 ‘89

『アドルフに告ぐ』連載期間 ‘83 ‘85

物語の年代 ‘36 ‘45 ‘83

『はだしのゲン』 ‘72 ‘85

『総員玉砕せよ!』 ‘73



あらすじ

- 時は第二次世界大戦前。３人のアドルフの運命を描く大河ロマン。在日ユダヤ人のアドルフ・カミル、在日ドイツ人であり、ナチスの将校の父と日本人の母を持つアドルフ・カウフマン、そしてナチス第三帝国総統のアドルフヒットラー。この物語の鍵を握る「ヒットラーユダヤ人説」の証拠となる、ある機密文書をめぐって各機関、あらゆる人間が血みどろの争いを繰り広げる。

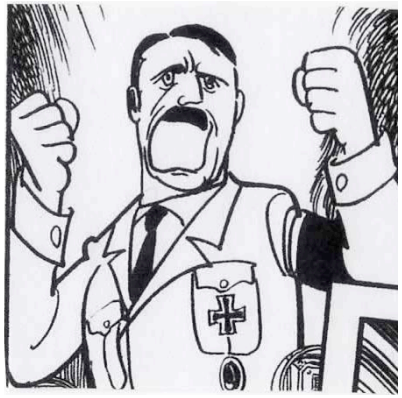
- 結局、ヒットラーが亡くなるまでその機密文書が世界に公開されることは無く、第二次世界大戦は終わりを告げる。その後戦争を通してお互いに仇となったカウフマンとカミルはイスラエル戦でアラブ側、ユダヤ側の兵士となり、決闘をおこなう。決闘の末カミルが勝ち、カウフマンは死亡。冒頭のエピローグにつながり、３人のアドルフの数奇な運命の立ち合い人である峠草平がカミル墓を訪れ、この物語を本にし、後世に伝えていこうと決意する。

登場人物紹介

アドルフ・カミル

アドルフ・カウフマン

アドルフ・ヒットラー



峠　草平

由枝恵・カウフマン/峠　由枝恵

エリザ・ゲルトハイマー

実在の人物

マルティン・ボルマン

ヨーゼフ・ゲッベルス

アドルフ・アイヒマン

ドクトル・リヒャルト・ゾルゲ

エヴァ・ブラウン

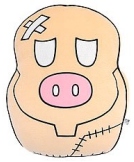
手塚漫画のスターシステム

- 作品によって名前は違うが多くの作品に同じ人物を使う。

アセチレン・ランプ

赤羽（ハム・エッグ）

『アドルフに告ぐ』の特徴



ストーリ上の特徴

- 歴史とのリンクが絶妙
- 男尊女卑ぎみ？
- 人種間の葛藤＞戦争

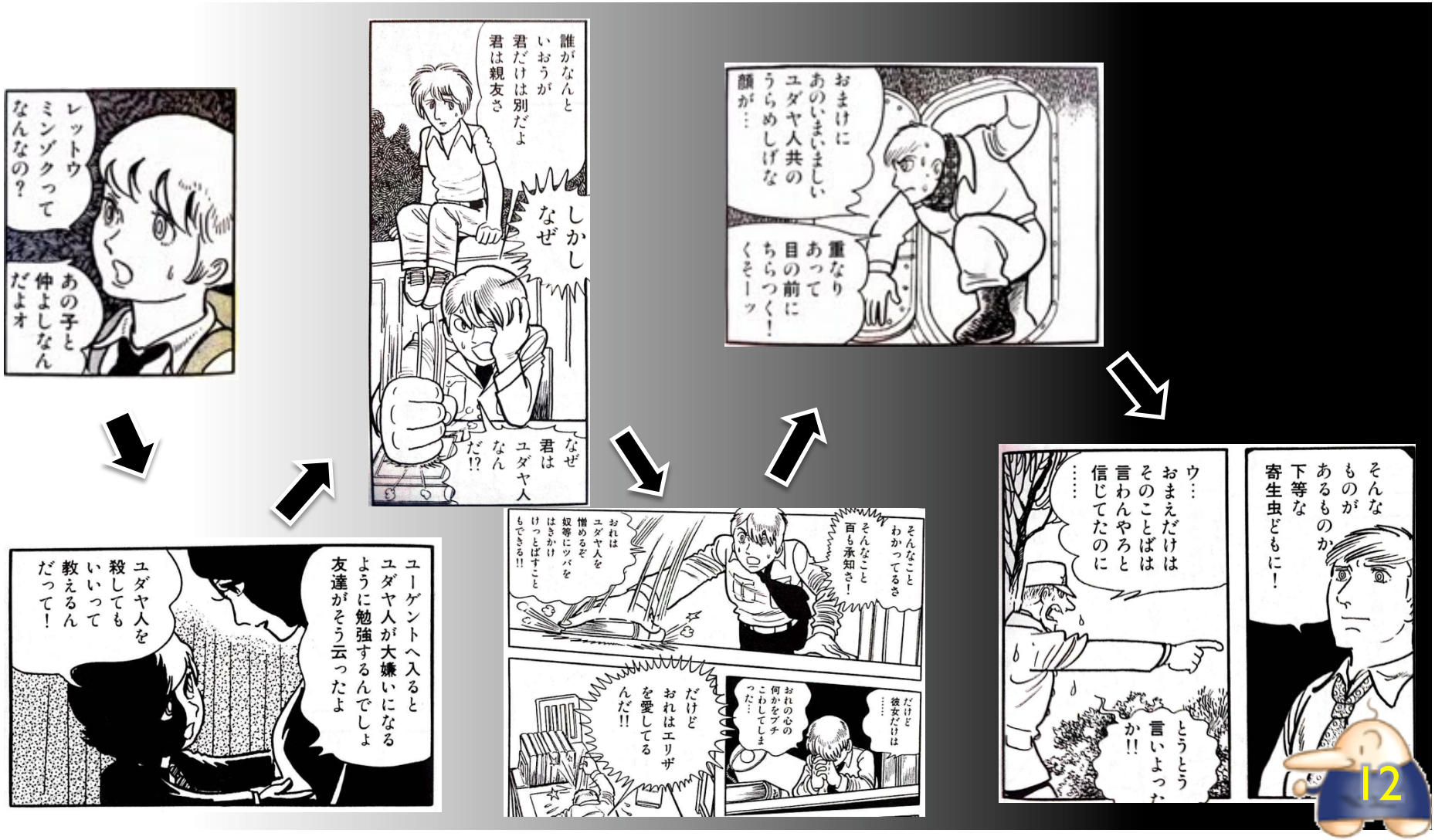
表現方法の特徴

- 手紙による心情表現
- 他民族を迫害する側の苦悩

人種間の葛藤＞戦争

- ユダヤ人との混血であるヒトラー
- 日本に生まれ育ったユダヤ人、アドルフ・カミル
- ドイツ人と日本人のハーフとして生まれ、ユダヤ人の親友を持ち、ユダヤ人の少女に恋をするもナチス党員としてユダヤ人を憎むアドルフ・カウフマン

ナチスの思想と友情、愛情に悩むアドルフ(カ)



自らの血に悩むアドルフ(カ)

ナチスの考え方

アーリア人種＝優秀人種

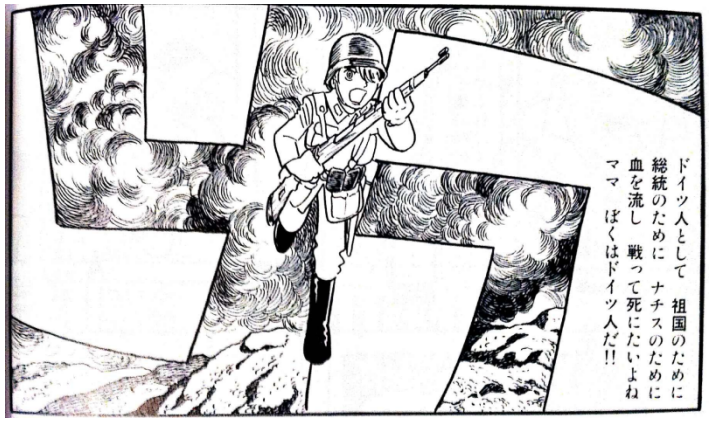
日本人＝二流民族

ユダヤ人＝劣等民族

最も優れた人類を残すために、アーリア人は純潔を守らなければいけない。血を混ぜるべきではない。

手紙を通した心情表現

一度目の手紙
初めてヒトラーに会った際

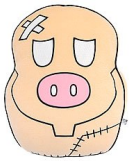


二度目の手紙
初めてユダヤ人を殺した際

三度目の手紙
ヒトラーの秘書になった際

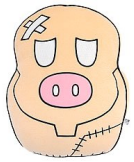
愛する母への手紙＝ア　　な気持ち

他民族を否定している側の苦悩の描写



漫画史的な立ち位置

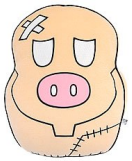
- 対立する二つの立場を両方の視点から描いている点



対立する二つの立場

- カウフマン（ナチス）とカミル（ユダヤ人）の対立する二つの立場を両方の視点から描く

→一方的にどちらかを憎むのではなく両方の立場から戦争を考える

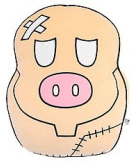


『アドルフに告ぐ』史実との関連

ヒトラーユダヤ人説

手塚治虫が描くヒトラー

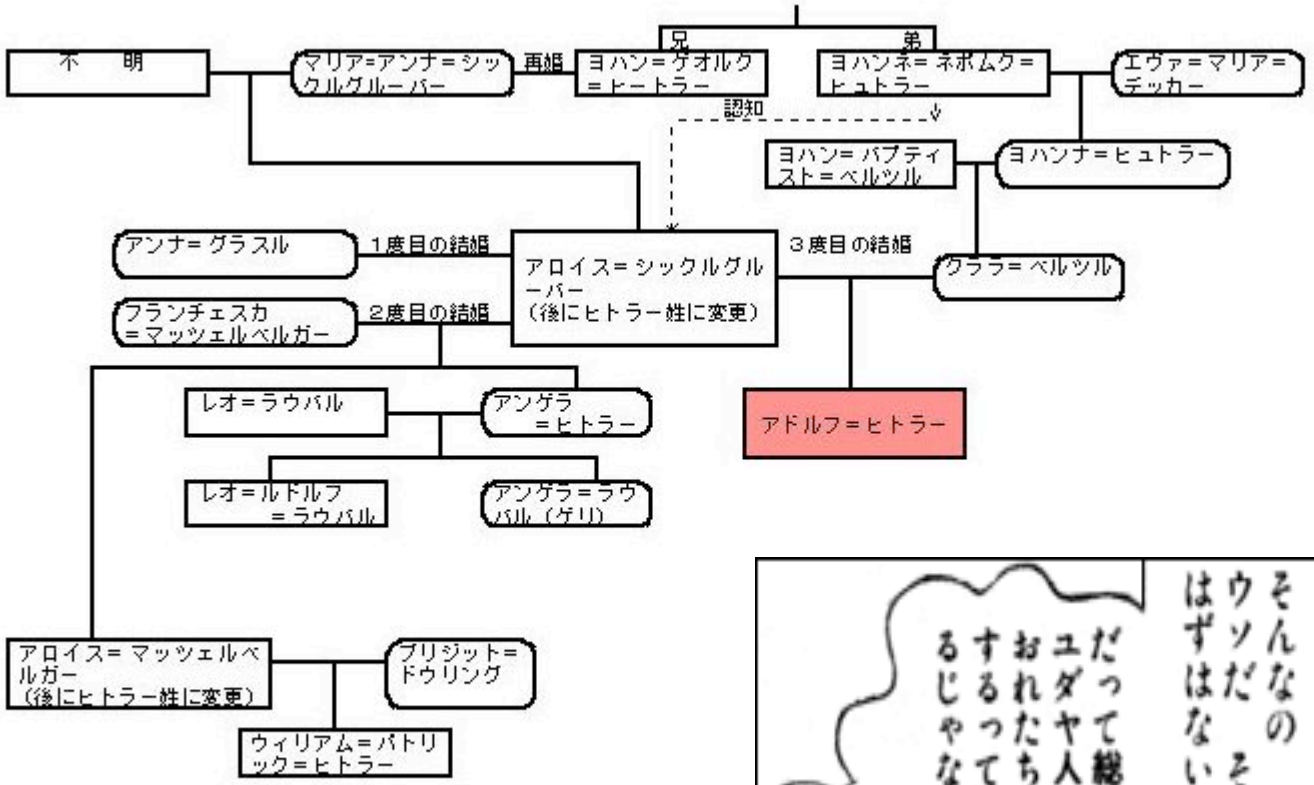
実際のアドルフ＝ヒトラー



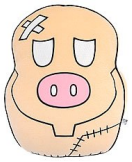
アドルフ＝ヒトラーという男

- ドイツを率いて第二次世界大戦を引き起こした。
- 今日まで独裁者の典型とされる。
- 自らが掲げる人種主義的思想
  =ナチズムに基づき、ユダヤ人を迫害。

ヒトラーの家系図



http://www17.ocn.ne.jp/~senshi/hitora.html
http://history1900s.about.com/library/holocaust/nhitanc.htm



実際には様々な歴史学者によって否定！！

ヒトラーにまつわる様々な学説

アドルフに告ぐ　まとめ

そして　その息子が
孫のアドルフに…
やがて世界中の何千
万の人間が…
正義って
ものの
正体をすこしばかり
考えてくれりゃいいと
思いましてね…
つまんない望みですが